


校長通信  <h1 style="text-align: center;">協 創</h1>	<p style="text-align: center;">～ 学校教育目標 ～          かしこく やさしく ひたむきに  <b>「一人になれる 一つになれる」</b></p>	令和5年 4月 育てる「3つの宝」《チーム中央小》 1) 自立した自分 2) 協働できる仲間 3) ふるさと丸子 
--	--	--

**『チーム中央小』で「笑顔かがやく楽しい丸子中央小」に〔共創的対話：学校文化づくり〕**

今年度も「笑顔の対話」・「創造サイクル」をキーワードに、  
 「学校教育目標」 **かしこく やさしく ひたむきに** の具現に向けて、  
 授業づくり、学級づくり、そして、学校づくりに、「明るく、楽しく、  
 前向きに」、各自の強み（持ち味）を生かして取り組んでいきましょう。  
 丸子中央小学校のめざす子どもの姿（学校GDには輝く言葉が満載）

- 3つの宝**をもって丸子中央小学校を卒業できる子ども
- 1) **自立した自分**  
 興味・関心のあることに取り組み、学習したことを活用できる子
  - 2) **協働できる仲間**  
 互いのよさや違いを認め合い、考えを交流しながら、心や体を働かせて  
 友だちと共に学ぶ子
  - 3) **ふるさと丸子**  
 地域の文化や人を知り、未来に向かって地域を大切にする子

変化の激しい今日にあって、これからの子どもたちには、主体的に  
 課題に取り組み、新しいものを創り出す力が求められています。

自立した人間として、他者と**協働**しながら**創造的**に生きていくのに  
 必要な資質・能力を備えることがますます必要となります。まさに、  
 「丸子中央小学校のめざす子どもの姿」として示され大切に実践されて

きました。令和5年度重点目標は、「一人になれる 一つになれる」です。本校の課題解決に向  
 け、令和の日本型教育のキーワード「個別最適な学び」と「協働的な学び」につながるものです。

今までの実践を継続し、更に新たな活動を生み出しながら、何事にも主体的に取り組もうと  
 する意欲や、多様性を包み込む態度、豊かな感性や思いやり等の育成を図っていきましょう。

子どもの心に寄り添い、互いに悩み考え合いながら、可能性の芽を伸ばす人づくり（「自立  
 の根っこづくり」）に向けた歩みを大事していきたいと思えます。「まず教職員から始めよう」

子どもを中核に据え、ピンチをチャンスに変えながら、日々の「つながり・かかわりづくり」を  
 よろしく願いいたします。

**自立（創造・協働・自主）の根っこづくり**  
 「児童の教育は、児童にたちかえり児童によって児童のうちに  
 建設されなくてはならない、うちからである。児童のうちから構成され  
 るべきものである。」  
 淀川茂重著「途上」より

**具体的な取組（キーワード）**

<b>考え合う楽しさ（共学の推進）          （主体的な学び「創造」）</b>	<b>（温かい）プラスの言葉・行動          （思いやりの心「協働」）</b>	<b>やり続ける粘り強さ          （強靭な実行力「自主」）</b>
---	---	--

○ 多様性を包み込み、「具体的・視覚的・肯定的支援」を視点に「授業のユニバーサルデザイン」の実現

**西内小との統合に向けた交流キャッチフレーズ 『笑顔でつなげよう 両校の思いを未来へ』**  
**交流コンセプト 「お互いの学校文化を知り合い、両校の思いを未来につなぐ笑顔の交流」**

**新小学校学習指導要領 全面実施4年目 「子どもも先生も アクティブラーナーに」**

# 【ちよこつと研修（授業づくりが学級づくり：どのようにわかり、できるようになるか）】

## （1）丸子中央小学校で生まれている学び（先生方の日々の実践がベース）

主体的・対話的で深い学びの具現へ

“ 出会い－感動－発見－変容 ”

子どもの変容(成長):気づき・発見(つぶやきや振り返り等からとらえる)

【生きる力】キー・コンピテンシー(資質・能力)

- 1) 自律的に活動する能力
- 2) 異質な集団で交流する能力
- 3) 相互作用的に道具を用いる能力

【3つの宝】

- 1) 自律した自分 【 自主 】 : ひたむき
- 2) 協働できる仲間 【 協働 】 : やさしく
- 3) ふるさと丸子 【 創造 】 : かしく

〔課題・願い〕先生方の振り返りから

- 自分一人でも正しく判断しやりきることにしたい。
- 子ども同士の語り合い（対話）にしたい。

【令和5年度の重点目標】

「一人になれる 一つになれる」

個別最適な学び

一人になれる

一つになれる

協働的な学び

子ども自らが 考え合う楽しさを感じる授業づくり  
～ 視覚的・具体的・肯定的支援を通して ～

〔楽しさ〕は、自分自身の気持ち(心)、思いから感じ生まれるたのしい状態。(わくわく感)

- 子どもの興味をもとに、地域を題材とした探究的な学び:「蚕・畑・太鼓など」
- 子どもの主体的な学び(共学の推進):先生も子どもと共に追究する探究仲間
- 自ら追究する中で、心から感じる人との関わりの“たのしさ”(創造サイクル)  
人との関わりのベースは「友達」:ペア・グループ学習等多様な学び方の工夫。  
地域の方(専門家)との関わりや世界とのつながりが創造されていく“たのしさ”
- 「問い」を大切にして、授業の流れが分かるノート(板書)づくり

(視覚的(見える化):考え合う場づくり)

令和の日本型学校教育に

誰一人取り残さない:SDGsにもつながる

お互いの実践を知り合って、学び合っていきましょう！  
長野大学早坂先生から授業のUDを学んでいきましょう！

実践と理論  
の融合

(子ども達が成人して社会で活躍する頃、日本は厳しい挑戦の時代を迎える)  
「一人一人が持続可能な社会の担い手としてその多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と 社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される」

【子どもと共に創る授業の創造を通して】 主体的・対話的で深い学びの実現  
『答えのない世界に、自分なりに答えを出し切り拓いていける子どもを育てる』  
『明日を創る子どもが育つ 笑顔かがやく楽しい学校』